



「化粧室」



天と地との間に
 天と地との間に
 天と地との間に
 天と地との間に

Earth to Heaven
 天と地との間に
 天と地との間に
 天と地との間に

「Earth to Heaven 天と地の間に」



「lovepop-0203」



「いそ」



NO.38 2002.7

aaca

観日本建築美術工芸協会

アピアランス



aaca会員
インテリアデザイナー
荒井雄一デザイン事務所代表取締役
ARAI YUIICHI

荒井 雄一

東京都渋谷区桜丘町29-17-401
TEL 03-3780-0312

「化粧室」

東急百貨店本店トイレ 化粧コーナー

装う自分自身の実像を自らの目で見るとは出来ない。
しかし鏡はリアルに映し出す。その為ガラス自体の存在感を極力消し、映し出された虚像はあたかも自分自身が他人の目となることを感じるようにと試みたものである。



aacs会員
スタンドグラス作家
SAKAI HIDEKO

酒井 秀子

武蔵野市中町3-7-8-404
TEL 0422-54-7102

「Earth to Heaven 天と地の間に」

酒井秀子常設ギャラリー
H=1640p250

「主よ。あなたのみわざはなんと多いことでしょう。
地はあなたの造られたもので満ちています」詩篇104
これが作品で表現しようとしたことのすべてです。断片はすべてキルンワークで数種のガラスを焼き込みました。



aaca会員
画家
KAGI YASUHIDE

鍵井 保秀

京都府舞鶴市浜56
TEL 0773-62-0241

「lovepop-0203」

個展会場
90×190×30cm

作品のある空間に笑顔が生まれる。そんな作品を作りたいと日々制作しています。そして、その笑顔が人から人へと広がっていけば素敵だと思っています。



aaca会員
アーティスト
ITO ITSUE

伊藤 五恵

富崎市鶴島1-7-26
TEL 0985-29-7019

「いえ」

県立日南病院 中庭
170×200×200cm

つながり、支え合い、助け合う拠り所としての「いえ」。違いを認め、分かち合える「いえ」。現代社会の一般的な「いえ」の姿を表現しました。

CONTENTS

文化・芸術と都市空間	1
時代の華一輪	5
aacaトーク	6
トピックス	9

■表紙デザイン

高部 多恵子

表紙の作品を募集しています。
事務局までお問い合わせください。
尚表紙のレイアウトは、広報委員会でまいります
のでご了承下さい。

発行：観日本建築美術工芸協会
Phone 03-3457-7998
Fax 03-3457-1598
〒108-0014
東京都港区芝 5-26-20
建築会館 6F
URL: <http://www.aacajp.com>
E-mail: info@aacajp.com

振替：00110-2-365085

編集：(社)日本建築美術工芸協会 広報委員会

広報担当理事 柳澤孝彦

委員長 玉見 満

副委員長 高部多恵子

北村孝昭、石田真人、山崎輝子

長谷川亨、瀬川秀之、佐田興三

事務局長 伊藤留雄

制作協力：中栄印刷工業株式会社

都市と自然—かもめの目線

我が家の北山に散歩する。第一ポイントは、貯水池、段々に3つある。そこからは、大阪湾が一望でき、六甲山が後ろにたっている。毎日、太陽と、雲、海と山とを、感じる事ができる。

或日、スケッチの水が汚れてしまった、水飲み場は役に立たず、見ると池は案外透き通っている。下に降りてみた。

紅葉した落ち葉が吹き寄せられている。

見上げるといつも、毎日見ていた、海や山、池辺の感じが全く違う。別世界に入り込んだようだ。

たった1メートルにも及ばない視点の差が、ミラクルな世界を開いたのだ。

考えると、古来より、高い視点を持つるのは、権力者に決まっていた。

城は、その象徴である。鳥瞰出来るのは施政者だけだった。

反動か、やはり力の象徴か、近代においては、タワーが競って建てられた。

旧東ベルリン、上海、クアラルンプールなどそこらじゅうにある。

地を這うような視点より、違う目線で見られるということは、同じものでも、よりダイナミックに見えるという事である。

つまり、自然立地のなかで、そんな都市は、魅力があるのだ。

ガラタ橋の棧橋についた船から見たイスタンブール

ブルックリン、バッテリーパークからのニューヨーク摩天楼、今は寂しいけれどゴンドラよりみるヴェニス、サンマルコ広場

鑑真号よりみた上海バンド、これも今は日々様変わりしているが、これらの都市は海（江）より見渡す事ができる。

山から見おろせて、美しい都市も、たくさんある。

リスボンの近郊にシントラという街にいった、駅まであるのだが、その山道からの景観は、中世を彷彿とさせる箱庭だ。

ポルトガルついでに、ナザレは、絶壁を上った丘よりみたが、崖一面に咲いていたアロエのはなの向こうの街はシーズンオフで、静まり返っていた。

ヨーロッパのドイツあたりの山城からは要塞の機能からも四方を見渡せる。

日本では、函館山からの夜景、六甲山、生駒山からの夜景で、昼はもうひとつかもしれない。

そういう意味で、日本は、山や川に恵まれ、起伏に富んでいるにもかかわらず。

スベクタルな景観の都市、又は街もすくない。都市のビューポイントが、都市計画にいれられていないのかもしれない。大阪へ来た人名古屋に来た人はお城に、東京へ来た人は、東京タワー、都庁？

なにか、その辺にも都市の魅力創りにも関係がありそうだ。次にあげる三つの都市は、海—外界と大陸—内界の出入り口として何世紀にも渡り生きて来た。それは都市と自然の関係の一つである。

水の都 ヴェニス

くこうして彼はふたたびあの最も驚嘆すべき船着場を眺めることとなった。近寄る航海者の敬虔な視線に共和国が示しうる、あの幻想的建築物の華麗な構図を眺めることとなった。宮殿の軽快な美観、溜息橋、岸辺に沿った獅子と聖者との円

柱、童話風の神殿のはなやかに突き出ている側面、門道と大時計とを見通す景観。そういうものを眼に入れながら、陸路を経てヴェニス停車場に到着したのでは宮殿に入るのにわざわざ裏口を選ぶも同然であって、この世にも奇蹟的な都を訪れる者は現在の自分のごとく船で、大海を越えてやってこなければならぬのだと悟った。

「ヴェニスに死す」トーマス マン

くおまえと結婚する、海よ。永遠におまえがわたしのものであるように。

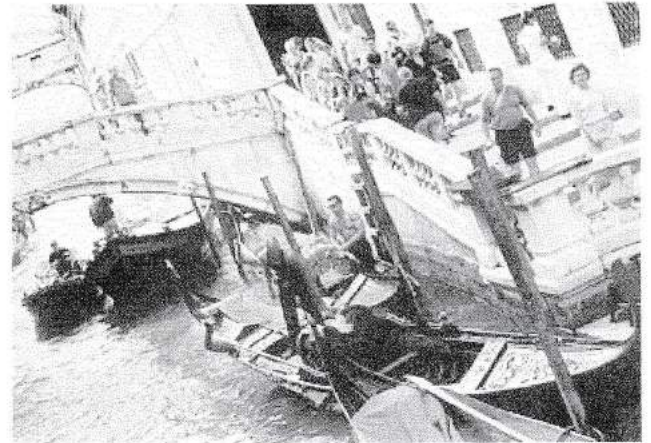
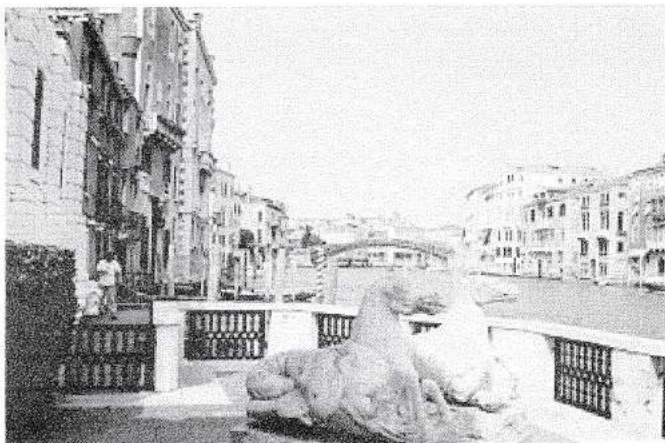
「海の都の物語」塩野七生

ヴェニスは千年の海の都、海と結婚した都市

ヴィスコンティの映像でも海よりゴンドラでヴェニスにはいるシーンより始まる

昔、鉄道でヴェニスに入った私は、昨夏には空港より船ではいった、ムラノを経由し、サンマルコ広場の対岸のリドに着いた。船着場の真ん前のホテルで船の行き来が手に取る様に見える。世界一周の超豪華客船から、水上タクシーまで多様な船が頻繁にいきかう、滅茶苦茶ピカピカの超豪華ヨットなんかも停泊しているその海には、杭がうってありそれが海の道を示している。昔、外敵が攻めて来た時、この杭を全て取り払い道を無くしたら、たちまち船が難破し、ヴェニスはかろうじて助かったと「海の都の物語」にあった。

リドは小さな島で、海水浴にヴェニスから人がやってくる。島を一周している



「文化・芸術と都市空間」

バスがある。

しかし、ヴェニスには車はない。歩くか船に乗るかである。

これはこのモータリゼーションの時代に信じられない世界だ。たぶん世界中で、ヴェニスしか知らない。

北のヴェニスと言われるブルージュ。ベルギーは、堀が街の交通手段でもあったけれど馬車も、車も通っている。東洋のヴェニス蘇州も、自転車でもいいだ。

水の都大阪はとっくに堀を埋め立て高速道路にしてしまった。

だから車のないヴェニスには、筋肉もりもりの男が、沢山いる。船で来た荷物を後は人力で二輪車にのせて屈強の男があのだ鼓状になった橋を持ち上げ運ぶ。これは、案外の見物なのだ。

現代の都市計画では考えられない、これからも計画はされないだろう過去の遺産の街ヴェニス。これを唯一無二と言うのではないか、とさえ思う。

それほどまでに異彩を放ち、古今東西、おおくの人を魅惑してきた。

今日も何十万人の人が一目ヴェニスをとやってくる。

しかしヴェニスは毎日沈んでいる、毎日減っている、それは死と同義語である。

死は生ある者に必ず訪れる。

しかし、『延ばす事は出来る。』これもヴェニスのコンセプトなのだ。

ヴィスコンティの映画『ヴェニスに死す』では、初老のアーティストが、ヴァカンスにヴェニスにやってくる。そして、美しい少年に恋し、死に場所に選ぶ。

千年間死に続ける都市ヴェニスは、そんな死を予感させる不思議な都市である。

世界一の金持ちが、別荘をもち、船を持ち、歓楽にふけれる都市、しかし、奢れる者にも、奢らざる者にも、滅びの時が必ずやってくる。

ニューヨークに死す、だとギャングに襲われた感じだし、パリに死す、だと身を持ち崩した感じだし、ロンドンだと風邪をひいて肺炎をおこした感じだし、ローマだと、食中毒、東京で、だと行き倒れ

ヴェニスはインテリアチストの死に場に似合っている。金と芸術と退廃と老醜の臭いがする都市だ。

イスタンブール

ヴェニスからアドリア海を南におりイオニア海、エーゲ海、マルマラ海とくると黒海との接点にあるのがイスタンブールアジアとヨーロッパの接点の都市。

〈紀元660年頃、ボスポラス海峡と金角湾が合流する親指形の土地に、ギリシアがビザンティオンを建設した。紀元330年コンスタンティヌス帝がそこをローマ帝国の新首都にすると、コンスタンティノープルと呼ばれるようになった。〉

その後、金角湾の対岸まで都市圏は拡大した。旧市街と新市街はガラタ橋で結ばれている。公式にイスタンブールという名になったのは1930年。長い歴史を通じて、ボスポラス海峡の対岸にまで市域を広げ、二つの大陸にまたがる唯一の都市になった。〉

NATIONAL GEOGRAPHIC

映画『オリエント急行殺人事件』の冒頭では素晴らしい夕焼けがセントソフィア寺院に映え、イスタンブールが映し出される。アラブ人、アフリカ人や、変な

まげの日本人らしき女性などが行き交い、オリエントの入り口を表現する。

そのシーンに魅せられて12年前に訪れた。残念ながら空港からタクシーのイスタンブールは曇り、5月の連休でもセーターが必要だった。

東ローマ帝国、ビザンチン美術を代表する教会がイスラム教のモスクになっているのは歴史の積み重なりだ。

水道貯水地下宮殿にはローマの遺跡から取って来たコラムや彫刻が資材として使われている。古代より取ったり取られたり、現在もその争いは、すこし南で繰り広げられているが。

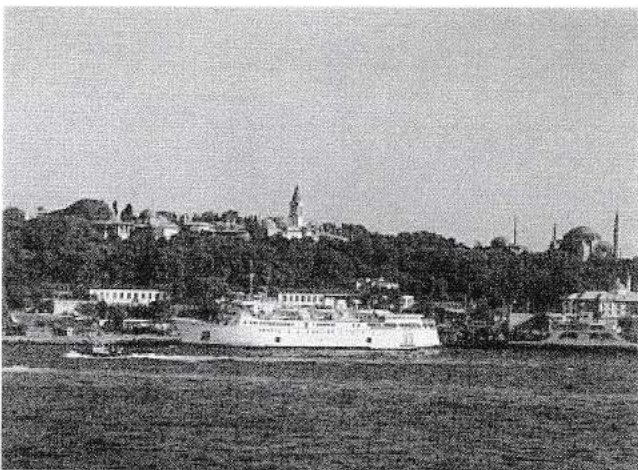
新市街の目めき通りにはファサードにギリシア的なオーナメントが付いた5〜7階建てのビルがならぶ。しかし、2階以上にはテナントがほとんど入っていない

日本はそのころバブルの真っ最中、物価は約10分の1だった。これが都市の衰退のリアリティーであり、その時は不思議な物を見たと言うだけで、まさか、日本が大阪の御堂筋が心齋橋筋がそうなるとは、予想できなかった

私は、日本でバブルが崩壊した時、日本のイスタンブール化が始まったと感じた。都市の盛衰は、国家の盛衰でもある

その後、もう一度海からイスタンブールに入りたくって、アテネからクルーズ船に乗り、やっと夕日のイスタンブール、ガラタ橋の岸壁に着いた。オスマントルコのプライドを示すようにソフィア寺院ブルーモスク、スレイマニエ寺院が浮かび上がる。しかし

〈東と西、近代と中世、聖教分離とイスラム原理主義、先の大地震と次の大地震そして繁栄と経済破綻の狭間にあるの



だ〉 NATIONAL GEOGRAPHIC

その経済状況はさらに悪く、海路の接点として栄えた都市もその国家の盛衰に翻弄されている。日本の明日を見るようだ。

上海

〈長崎から上海への連絡船は、長崎丸と上海丸が、交代して、休みなく行ったり来たりしている。このときの上海ゆきはまた、私にとって、ふさがれていた前面の壁が、崩れて、ぽっかりと穴があき、外の風がどっとふきこんできたような、すばらしい解放感であった。——

青かった海のいろが、朝眼をさまして、洪水の濁流のような、黄濁いろに変わって水平線まで盛りあがっているのを見たとき、とっさに私は、「遁れる路がない」とおもった。——

陰謀と阿片と、売春の上海は、蒜と油と、煎薬と腐敗物と人間の消耗のにおいがまざりあった、なんともいえない体臭でむせかえり、またその臭気の忘れられない魅惑が、人をとらえて離さないところであった。〉

『どくる杯』金子光晴

1926年大正15年のことである。

上海は東シナ海より長江〈揚子江〉に入り、その支流である黄浦江に位置する。

その、川幅は約400メートル、海から見ると右側が外灘〈バンド〉旧市街左側が浦東〈ブードン〉新最先端ビジネス街である。対岸が対極となる、すごい景観構成である。

私は上海に、1989年と1997年に飛行機でいった。最初の上海は、バンドの歴史的ヨーロッパ風建築や古いホテル

ばかりみていた。

浦江飯店、旧日本人租界にある。このベランダからはバンドがななめに見渡せるだだっ広い部屋にひとりで泊まった時は叫んでも誰も来そうになく、恐くて寝付かれなかった。

そこから、黄浦江にかかる橋、外白渡橋を渡りバンドにはいる。外貿商場ビル、中国銀行ビル、和平飯店、ここにも、泊まった、アールデコの内装も美しく残ったホテル、オールドジャズバンドが演奏しているが、ここは昔も今も上海。

中国通商銀行、上海税関、香港上海銀行盤谷銀行、東風飯店と立派な歴史的建造物が並ぶ往年の上海が残っている。2度目は新しいビルばかり見せられた。

浦東地区は東方明珠塔（テレビ塔）が建ち高層ビル群が新しい中国を見せつける。

それでも、金子光晴の言う、上海の持つ気分は十分すぎる程感じる。魔性の都市この港町に西洋列強がむらがり、都市をつくった。その怨念のような空気が消えずにふと、風がカーテンをひるがえした拍子に、見てはいけない、ものを見せてしまうそんな空気がのっこっている。

日本の普通の人である私にとってエライトコロである。

大正の終わり頃は、

〈日本からいちばん手軽に、パスポートなしでゆけるところと言えば、満州と上海だった。いずれ食いつめものもの行く先であったにしても、それぞれニュアンスがちがって、満州は妻子を引きつれて松杉をうえにゆくところであり、上海はひとりものが人前から姿を消して、一年二年ほとぼりをさましにゆくところであっ

た〉

現在は上海はどんなところだろう。

〈浮かれ騒ぐ大都会、上海には、退廃と階級社会、とてつもない金持ち、腐敗、縁故主義、洗練、気取った俗物といったイメージがつきまとう、そしてその上海は、現在の中国の象徴でもある。〉

THE NATIONAL GEOGRAPHIC TRAVELER

港街は、いつも文化の接点で、盛んな時は、他にはない発展をしてきた。どこも柄が悪く、渾沌とした奥深さを秘めている。ヴェニス、イスタンブール、上海、世界でもっとも魅力にあふれ、デカダンスな都市。

そういえば、歓楽街はいつも川をもち、川向こうは、悪所だった。川や、海の水の持つ魅力は、人の地球に生まれたことから明らかなのかも知れない。

AD&A 竹村 楊子

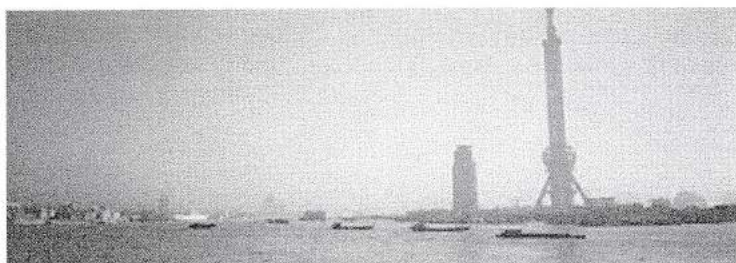
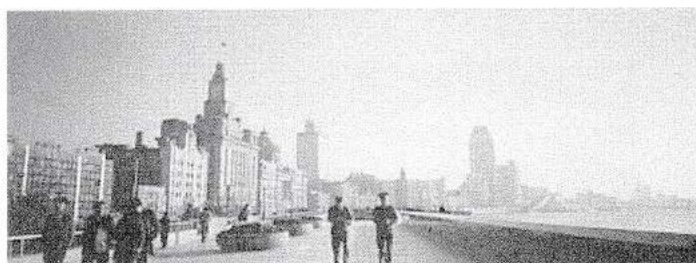
尚この文章を、書くにあたって図書館の本箱を眺めると、永年の研究成果を発表された名著が並んでいた。このテーマは私の専門ではなく、廻って来たオハチに、苦しみ、半端な事を書いて恥をかかただけなので、全く私的な感想文でお許しを頂ければと思ったものです。

ものたらないと思われる方の為に次に文献をあげておきます。

参考文献

- 『水辺から都市を読む』 陣内秀信
岡田哲志
『海。建築。日本人』 西 和夫
『渦と水の都市学』 山田雅夫
『都市とウオーターフロント』

都市環境研究会



時代の華一輪



aaca理事・調査研究委員長
環境造形・建築造形、日本大学教授・新制作協会会員
HIDAKA TANYA
日高単也
東京都世田谷区成城4-20-27
TEL03-3483-0212
03-5761-0628 (仕事場)
047-474-2496 (大学研究室)

自問自答

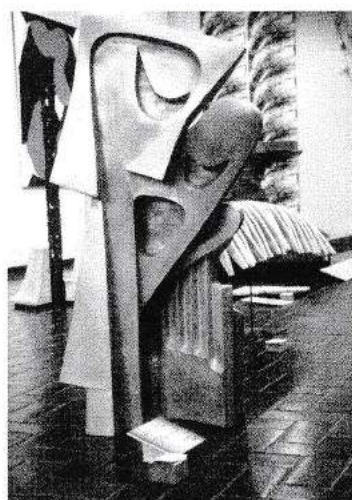
大学で教鞭をとりながら物づくりには
まり込み、夢中でつっ走っているうちに
還暦を越えてしまった。

建築学科を卒業してから、デザイン学
の確立を目指した故：小野襄教授のもと
で20数年間研究室活動に身を置いてきた。
システムデザイン、プロセスデザイン
、デザインプログラム等々の研究、
また材料開発デザインや複雑な形態の製
作方法とそれに伴う型製作の研究開発な
どが研究室の主要テーマであった。お陰
でそれは現在の私を支える基盤となっ
ている。

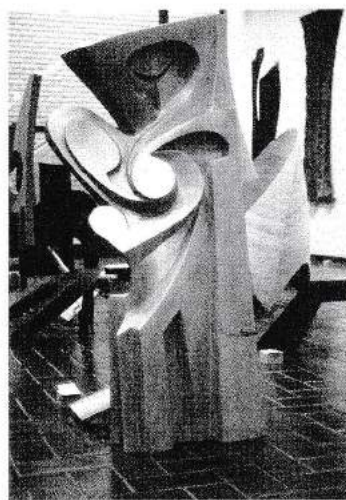
集団プレイを前提とする研究室活動と
は裏腹に、個人プレイの作品発表を始め
たのは、私が33才になった歳の第38

回新制作協会展スペースデザイン部
(1974年)への出品に始まる。当時、
社会派の作家は展覧会芸術すなわち美術
館という抽象的空間での発表活動には抵
抗やこだわりを示したものだ。しか
し、我々にとっては毎年の展覧会出品は
研究生活に1つのリズムを産み出す格好
の対象でもあった。私の初出品は「1つ
の型による習作」と題し、型作りに分割
のシステムを導入し、それから生まれる
形の多様なバリエーションを表現した立
体であり同時に、造形素材の新開発を提
示するものであった。幸運にも初出品で
受賞の栄に浴することとなった。これを
契機に、66回展の今年まで休むことな
く夏休みを全て返上して作品づくりにか

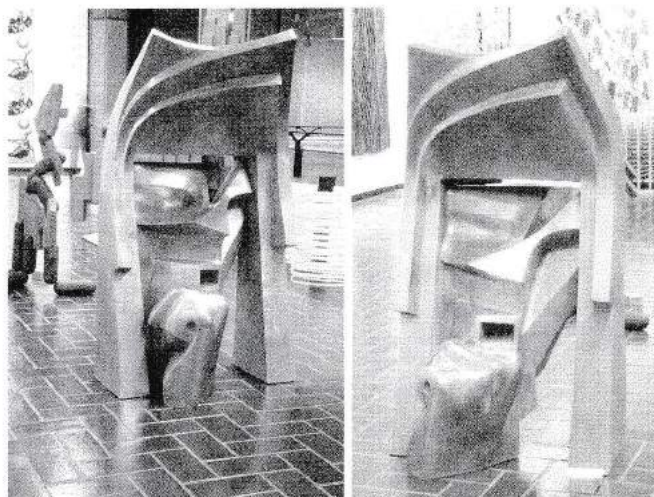
けてきている。通算すると29年になる。
ここ数年、私のテーマは自問自答する行
為の中に見い出している。日常的に意識
にのぼる願望と身近に起きる現実との狭
間での葛藤が表現の原動力となって空間
づくりの物語り性を生み出している。そ
れには見る位置に応じて作品の表情が多
様に変容する多視点的表現が課題とな
る。慈悲深い母親の姿であり同時にモナ
リザを連想する賢く美しく、艶っぽい姿、
横顔と正面顔が重なる。一方思慮深い壮
年男で未来を見据える強面の哲学者像が
一体化するように、多視点的の同時表現に
挑戦してみたのが今回の作品である。
2002年10月



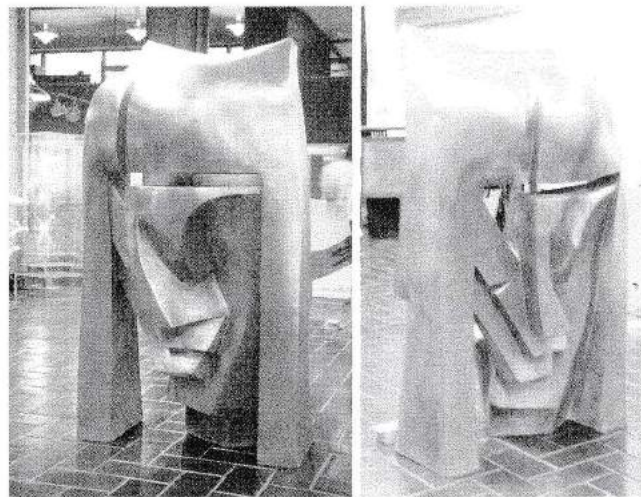
第65回新制作展 (2001年)
スペース2001-変容の壁-A面



一変容の壁-B面



第66回新制作展 (2002年)
GATE'02遠望・近思-A面



GATE'02遠望・近思-B面

時代の華一輪



aaca情報委員会副委員長
調査研究委員会副委員長
SAKAGAMI NAOYA
坂上 直哉
調布市西つづじヶ丘2-18-8
SAKAビル301 アートワーク空
TEL03-3308-8418

aaca HPの紹介ページに美の理念として 1. 美とテクノロジーの再婚 2. 関係の中に成立する美術を挙げました。この2項に思いを定めたのは、昔々の大学を卒業の頃です。未だこの辺りを右往左往の情けない様ですが、この度の拙文は1の「美とテクノロジーの再婚」について触れます。

学生時代、油科に居ながら油絵に興味を持たず、専らステンレス、アルミをキャンバスとして絵を描いていました。卒業制作もこの技法で提出したのですが、なかなか受け取ってもらえず半年後にオメコボシに預かりました。制作に当たりアルミは多少手を加える事が出来たのですが、ステンレスは切断する事位しか出来ませんでした。

「ステンレスの光の空間の中で絵を描きたい!!!」と思ったとき、テクノロジーの所有と開発力は大企業の奥の院に埋蔵されており、また企業にとって開発研究は〇秘事項です。

当時、華の第四機（機動隊）と駆けっこをし、長髪&ジーンで八幡製鉄（新日本製鉄）を始めとして大手鉄鋼メーカ

に「ステンレスの光の空間の中で絵を描きたい!!!」と言って廻りましたが、当然ながら門前払い、ただ一社、変わった常務さん（日新製鋼）が一人研究員を協力させるから遊んでみないかと言ってくれました。今思うと先方にロマンと先見性が無ければとても成立しない話です。自身、当時…現在もですが美術界のシステムにゼツポーしていましたが、美術業界とは誰も引き止めないのに最低10年は縁を切ろうと、研究所に丁稚奉公を志願しました。

当初は研究所や工場の片隅で徹夜し色気の無い夜明けのコーヒーを何回となく楽しみました。

やがて企業は私の研究室に数千万円の研究設備を投資し、工場設備も新設されました。私は絵を描く、そこから生まれた技法の中から企業は多くを蓄積しました。

鉄や銅、錫、銀、金、等は既に数千年の歴史が有り、人の感性に通信する多様な方法、技法が在りましたが、当時ステンレスは生まれて100年に満たない素材、主に酸化しにくいと言う物性から

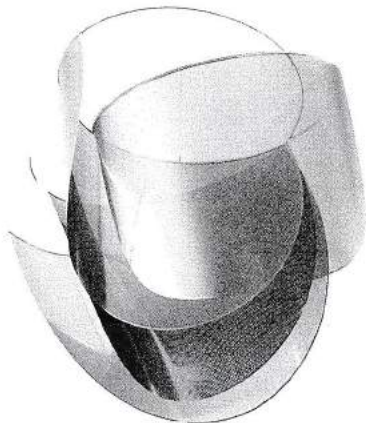
様々なコンビナートの設備や、家庭のシンクなどに使用されていたが、今っぽく言えば、人とステンレスのインターフェイスは未構築でした。

私が美の側面から関与し、この期間約10年間でためられた表面処理技法は、インコ法発色、エッチング（超深彫り、貫通）各種電解、超真空スパッタリング、プラスト、パンチング、エンボス、レーザーによる表現、研磨、そしてこれら相互の組み合わせ、建築空間へのパネル化等広範囲に及びました。

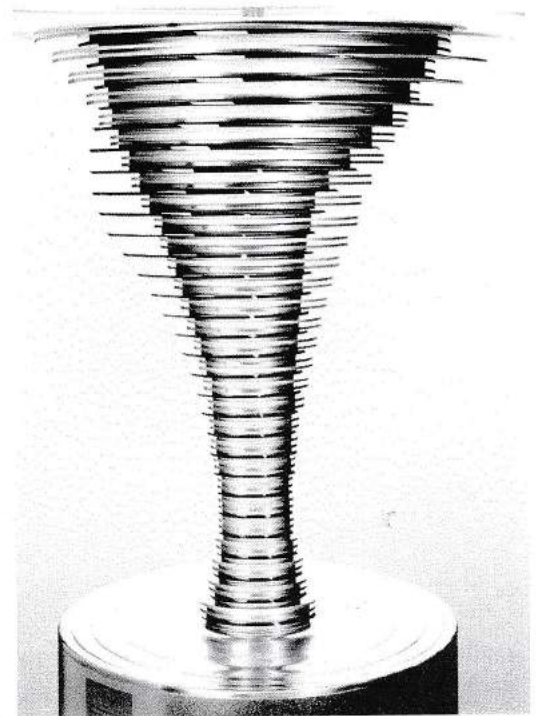
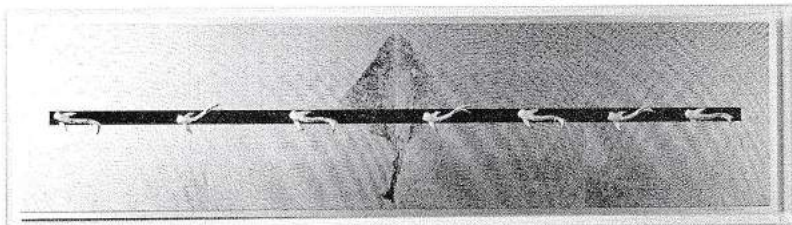
これらのトータルとして技術からの空間は、国内、台湾、韓国、中国、イスラム諸国等広くアジアの美意識に根ざした独特な色の文化として既に定着したと考えています。

そして、現在は項目2について一つ一つの仕事に沿って深めています。この課題は私たちの国土の風景に直接関わってきます。aacaの課題とも捉え、今後会員の皆様と語り合えればと考えております。

花風信 オペラハウス天蓋
設計 林雅子氏
技法：超精密穴開けエッチング スパッタリング発色 金メッキ 各種研磨
素材：sus304 板 特殊形状パイプ



七福殿 音戸丸
技法：発色 エッチング 錆物（ウッド合金）
素材：sus304



天地をつなく水 積水本社ロビー
技法：スパッタリング エッチング ダイヤモンド
プラスト 研磨 レーザ アルミ鋳物
素材：sus304厚9mm アルミ



芦屋女子短期大学教授 芦屋大学講師

長唄協会 理事

HIYOSHI KOSAHATI

日吉小三八 (石村和人)

東京都目黒区青葉台4-2-2

TEL03-3466-0695

長唄とは何でしょう？

長唄とは何でしょう。

江戸歌舞伎と共に発展、変化した三味線音楽の一つが長唄です。始めは舞踊の伴奏、歌舞伎の効果音楽でしたが音楽として劇場から離れ聞くための長唄も作られるようになったのです。

その歌舞伎は、もともと傾く(かぶく)、つまり自由奔放に振る舞う、異様な身なりをする。その様な人たちが始めたものなのです。

1603年、家康が征夷大将軍となって、江戸に幕府を開いた年。その年に京都では出雲の阿国が歌舞伎踊りを演じていたとありますからその頃から始まったのでしょうか。その頃の歌舞伎に長唄が使

われていた訳ではありません。この歌舞伎が色々なに変化し約100年後上方から江戸にも移り、江戸歌舞伎となり、長唄も江戸長唄とその名前が見られるようになるのです。歌舞伎は、庶民の芸能です。ですから人気を得るために、色々な工夫がなされた訳です、その中において長唄も時代と共にいろいろと変化しました。

つまり始めは上方より歌舞伎役者が江戸に下っておりましたが、その頃は女形が主演の演目でしたので長唄も柔らかく(写真①)、そのうち江戸に歌舞伎が定着し、荒事と言う江戸好みの演目が盛んになると長唄も強い感じの曲風(写真②)になるという具合です。さらに劇中にお

いて、効果を上げる為に御簾内にて唄われたメリヤス、長唄以外の物(浄瑠璃)との掛け合い、琴唄、浄瑠璃、大薩摩、謡曲、等の旋律を積極的に長唄に組み入れていったのです。歌詞の内容は、時代においても、地域においても又貴族のものから庶民の物までと幅広く、江戸文化を知る事はもちろん、それ以前の文化、生活、考え方、までをも知る事が出来るのも長唄の面白いところです。

今年の四月より、義務教育での和楽器の導入が始まりましたが、根本は、もっと日本の文化を知ること、その中で真の邦楽の発展があると思います。



正本 草摺引(しょうほん くさずりびき)



正本 相生獅子(しょうほん あいおいしし)



aaca会員
ガラス造形
NAKAMURA HIROKO
中村 弘子
国分寺市西町2-17-1
TEL042-577-1378

イギリス、パブリックアートの動き

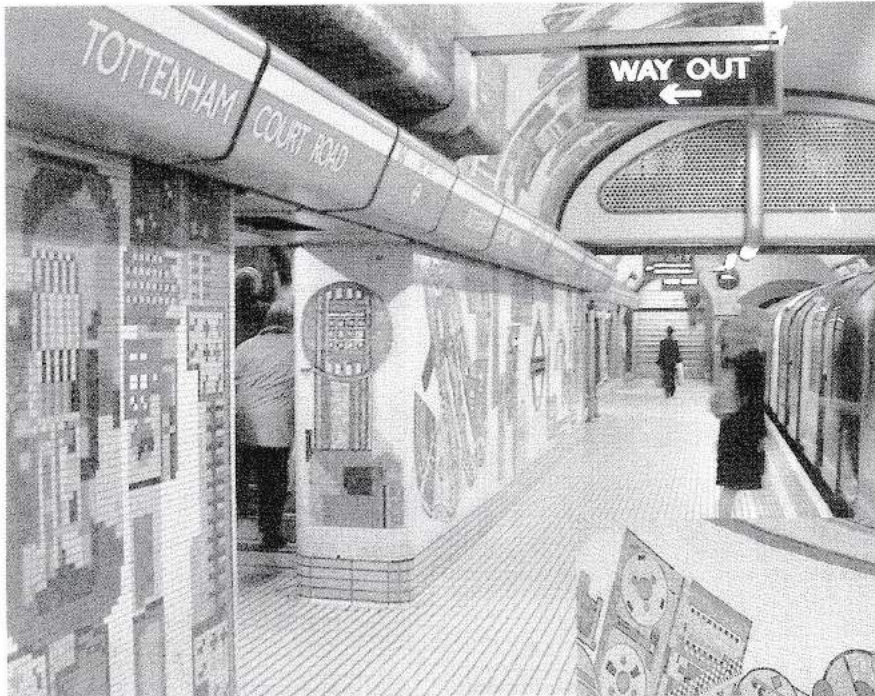
2001年の秋、aacaから推薦をいただき文化庁特別派遣在外研修員としてロンドンに滞在しました。研修のテーマは「パブリックアート」。私自身パブリックアートの制作に携るものとして、イギリスの作家はパブリックアートというものをどのように考えて制作しているか、ということを知りたいと思いました。

イギリスでも日本と同様パブリックアートと呼ばれるものは規模もスタイルもさまざまです。地域社会に深く関わる計画の中では、アートは作品という形で設置されるだけではなく、計画を達成するための手段としていろいろな方法で活用されています。たとえば地域開発計画へ

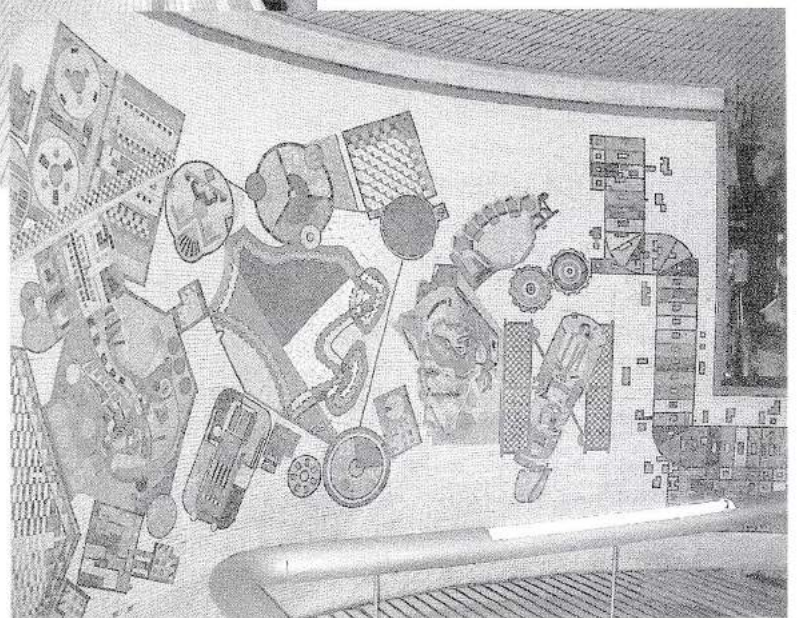
の住民の参加を促すためのワークショップやアートイベントなどで、そのような活動も含めてパブリックアートと呼ばれています。そしてこの「活動としてのパブリックアート」に作家も企画者も大きな意義を見出しています。このような考え方は日本でも見られるようにはなりませんが、そこに関わるアーティストの意識が日本とイギリスとでは大きく異なるように感じました。イギリスで出会ったアーティストたちは、公共の場に作品を設置することだけが彼らの仕事ではなく、自分の持つ専門性の高い技術を社会的な活動の中に活かすこともまた重要な仕事であると考えています。そしてその目的や

効果について理解し、社会に還元できる成果を生み出すことの意義を十分に認識していました。

現在、ロンドンのある地域では、そこで抱えている社会問題を解決するためにさまざまな事業が計画されています。「アートを活用して健全な地域社会を創り出す」という地域社会再生のためのパブリックアート計画です。その計画の成功のためにアートに課された役割はたいへん大きなものです。日本とは異なる社会状況の中でのことですが、アートの力を信じて積極的な活動を行っているアーティスト達のあいだに新しい価値観が生まれ、社会もそれを必要としていることを強く感じました。



ロンドン市内 地下鉄TOTTENHAM COURT ROAD駅
構内のモザイク (Eduardo Paolozzi 作)





aqca広報委員
大成建設株式会社 建築営業本部
営業部長
ISHIDA MASATO
石田 真人
新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル
TEL03-5381-5389

「軽井沢周辺有名建築と利休 幻の茶室「大庵」、民家 三五荘「旧古屋家住宅」を訪ねて」

今年の見学会は梅雨には珍しい台風一過の快晴の日となり参加者一同期待に胸を膨らまし東京駅前を出発。

途中の渋滞も僅かで昼過ぎには緑の眩しい広大な敷地の中央工学校「南ヶ丘倶楽部」に到着、昼食もそこに施設を見学しました。まず本館の研修室とその2階にある能舞台を備えた百畳敷の大広間「千ヶ竜」を見学、日本古来の舞台芸術の全てが上演できる舞台に感銘を受けました。次に千利休が大坂城下の屋敷に建てたとされる深三畳台目の茶室を今に蘇らせた建築家中村昌生先生の作品である「南暁」を訪れました。立礼席から若干勾配のある廊下を通り抜け、欄間に浅間山連峰を配した広間に赴き、石州流の師範である行田先生のお手前で一服頂戴しました。そろそろ一休みしたい気分の時に頂いた抹茶は大変おいしく気持ちを落ち着かせてくれました。

再び重い腰を上げ、更に廊下を突き進んでいくと水屋の左手奥に幻の茶室と言われる小間「大庵」に辿りつきました、天窓から差し込む細くも強い真夏の日差しの影を探して冥想していると都会の騒音から解放され「静けさ」を感じたのは私一人では無かったと思います。

「南暁」を出て遊歩道を抜けると山梨県塩山市より1935年に移築された地下1階地上3階の甲州民家「三五荘」に出会いました。別荘として使用されて以来の伝統ある家具調度品等に2人掛かりでも持ち上らない鉄乃木「たがやさん」の木机や建築当初からの蚕棚の跡の梁や如輪木（によりんもく）と言われる樹齢の最も長い樺の床板に時空の経過を忘れた程です。また戦前からの来訪者近衛文麿、鳩山一郎、岸恵子等の芳名録にもこの「三五荘」の歴史を読み取ることができました。

帰りがけに散歩道を散策しながら此処で学ぶ学生たちは優れた日本建築の生の教材に触れ将来の人生構築に生かせる幸せを羨ましく思う一日でした。

二日目はユニークな構造の軽井沢高原教会・内村鑑三記念堂、原広司設計の田崎美術館を見学さらに小諸へ足を伸ばし村野藤吾設計の小山敬三美術館、懐古園内の島崎藤村記念館を訪れました。それぞれの作品には歴史と足跡があり又それに触れることができ新たな感動を重ねる思いでした。

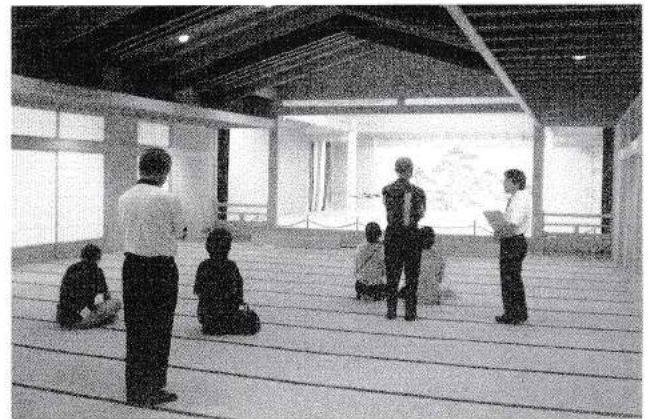
帰路はあいにくの雨天となりましたが和気藹々の内に無事解散できました。

今回の見学会は協会の理念そのもののすばらしい企画でした。

最後にこの企画の主催者である事業委員会の皆様と中央工学校の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



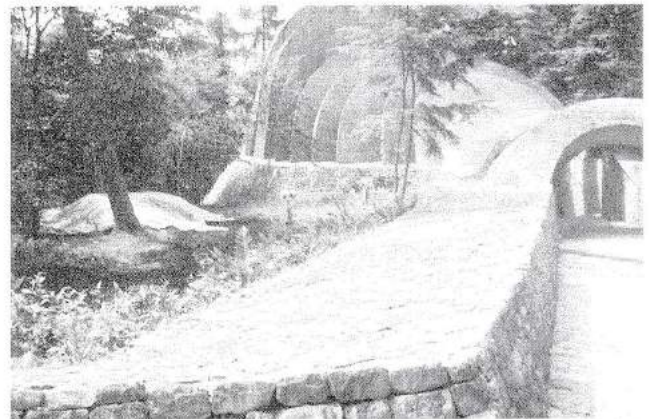
三五荘



大広間千ヶ竜



島崎藤村歌碑前にて記念写真



軽井沢高原教会・内村鑑三記念堂

内井昭蔵先生の思い出



aaca正会員
東京工業大学教授
(社)日本建築学会会長
SENDAI MITSURU
仙田 満
東京工業大学
目黒区大岡山2-12-1
TEL03-5734-3163

内井先生に初めて会ったのは1963年8月であった。東工大4年生であった私が「菊竹事務所へ入りたい」と函面を持って四谷のビルを訪れた時、応対してくれたのが内井先生だった。丸い顔に優しくそうな笑顔は、緊張していた私をすっかり安心させてくれた。翌年新人として菊竹事務所に入所したが、先生から多くを学ばせてもらった。生意気な私の意見に先生は逃げることなく「僕はこう考えるよ。」といいながら図やチャートで考えを示しながらいつもにこやかに議論にのってくれた。

1967年先生は菊竹事務所を辞めた後、東急田園都市線沿線の集合住宅を次々に完成させ、間もなく日本建築学会

賞を受賞された。野辺山のYMCAの寮はその美しいシルエットに驚かされた。あの作品は菊竹的なものからの脱皮であり真に内井的なものの初期の完成作と言える。それは世田谷美術館によってより強固に結実されたと言えるだろう。

1993年京都大学の教授に就任され、その後は特に審査員としての活動も多く、その数は日本の建築家の中で傑出している。それは先生が極めて中立的で公正な立場をとられ、また日本の多くの自治体が建築・町づくりの目利きとして期待された証拠である。先生は建築を一作品として見ることなく、常に環境との関係の中で評価されていた。京大を退官後、自らマスターアーキテクトとして作り上

げた滋賀県立大学で教鞭をとられ、建築教育に情熱をそそがれ、次の時代をになう若い人に伝えることに多くの時間をさかれた。何事にも手を抜かないで一生懸命にやり抜く先生の姿勢は、私を初め多くの後輩に建築家としての生き様を示された。

夏の暑い朝、先生は突然に逝ってしまわれた。しかもそれが私が依頼したシンポジウムに向かう途中であったことは、とても申し訳なく、思い出たびに悲しみに沈む。先生の健康な建築と社会貢献の数々を、そして何よりもひたむきな生き方を私達は忘れず継承し、伝えていかなくてはならない。

先生のご冥福を深く祈ります。



故内井昭蔵先生・前協会副会長

世界のトップブランドを集めた



「快適」「ゆとり」「安心」を実感できるトップブランドの数々。
格 というものがあります。



豊かな緑、歴史・文化と調和した愛宕グリーンヒルズフォレストタワー。国内最高レベルの耐震性能と閑静な周辺環境に調和したエクステリア、自然素材を活かしたインテリア、内外の単身ビジネスマンからファミリー層まで、多様なライフスタイルに応えた最先端のハードとソフトが完備されています。この地上42階建超高層住宅棟の各戸に、ツナシマ商事が確かな実績と選択眼でセレクトした、アプライアンスが採用されました。優れた性能、洗練されたデザイン、使い心地の良さ、環境への配慮、アフターケア—キッチン、ランドリーに最適のパートナーです。

White-Westinghouse

ホワイト・ウェスティングハウス社は、110年の歴史を誇り、常に米国の家電業界をリードしてきました。性能・省エネ・耐久性を考慮したニューモデルを次々に開発・製品化、輝かしい実績と信頼を得ています。特に「暮らしの洗浄」にこだわる開発コンセプトは高く評価され、米国の公的機関も品質を保証しています。



全自動食器洗い乾燥機



ドラム式全自動洗濯機/乾燥機

Amana

アマナ社は1842年にアメリカに移住した、ゲルマン民族の末裔が設立した歴史と伝統のある大型冷凍冷蔵庫メーカーです。伝統と実績に裏付けられた開発力・技術力、優れた機能性を追求して作られた風格と、環境と暮らしを考えた省エネルギー性能が、ヨーロッパ諸国を始めとする世界各国で高く評価されています。



大型冷凍冷蔵庫

Magic Chef

アメリカでガスレンジといえば、マジックシェフ。マジックシェフの歴史が築いた調理のコツの全てが活かされています。国産製品には見られない個性的な機能・特徴の数々。水分やおしさを包み込む強火から、愛情と時間をかけて煮込む火まで、火力自在のバーナーがお望みの火加減で見事に調理をこなします。



ガスレンジ

上記の他に、北欧のメーカーでASKO(アスコ)社や他メーカーの製品も取り扱っています。製品のお問い合わせ・カタログのご請求は

輸入 株式会社 ツナシマ商事

本社/東京ショールーム 〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-12 TEL 03-3833-1331(代)
大阪営業所/大阪ショールーム 〒550-0006 大阪市西区江之子島1-7-3 TEL 06-6448-4111(代)

Homepage

<http://www.tsunashimashoji.co.jp/>
ツナシマ商事が取り扱う、ユーティリティ・厨房機器の詳しい情報や仕様をご覧いただけます。

Show Room

本社・大阪ショールームへお越しください。係員がお客様のご質問にお答えします。また、製品のテストも行えます。